

「その他本市の都市景観の形成に重要な役割を果たしていると認められる建造物」

鎌倉市景観重要建造物等保全基金条例第1条に規定する上記の建造物については、「鎌倉市立御成小学校旧講堂」、「旧鎌倉図書館」及び「扇湖山荘」の3件の建造物が認定されています。

建築物の概要等は下記のとおりです。

鎌倉市立御成小学校旧講堂

大きな宝形（ほうぎょう）屋根の二つの塔屋をもつ特異な和風の意匠をしており、同一敷地内にある御用邸時代の冠木門（かぶきもん）を踏襲した門とともに、将来に継承していく必要のある今小路通りの顔として建っており、ランドマークとして都市景観上の重要性は高いものです。



- 沿革等：鎌倉町立御成尋常高等小学校の講堂として、昭和8年7月26日に上棟、同年10月14日に竣工
- 所在地：鎌倉市御成町19番1号
- 構造規模：木造平屋、トラス小屋組、床面積 688.2 m²

旧鎌倉図書館

縦長の上げ下げ窓が並ぶ洋風の壁面に瓦屋根を載せた和洋折衷のデザインとなっており、両切妻に懸魚（げぎょ）のついた破風板が設けられている点が特徴的です。この意匠は同時期に建てられた旧講堂を意識したのではないかと推測されます。これらの特徴的な意匠から、旧鎌倉図書館は、同一敷地内にある旧講堂、冠木門及び前面の歩道と一体で良好な景観を形成しており、旧講堂と同様に都市景観上の重要性は高いものです。



- 沿革等：鎌倉町立の施設として、昭和11年10月に開館
- 所在地：鎌倉市御成町18番35号
- 構造規模：木造2階建て、トラス小屋組、床面積 343.15 m²

扇湖山荘

本館は飛騨高山の民家を移築し手を加えたものです。明治期以降の建築物の中では屈指のもので、明治神宮宝物殿の造営などに携わった大江新太郎とその弟子筋が設計と現場を手がけています。建物には大江が好んだとされる猪の目や火頭窓など、日本的な伝統的なモチーフが見られます。

また、茶室（伏見邸）は、伏見宮別邸から移築されたと伝えられ、書院風の格調が高い建築物です。

庭園は山縣有朋別邸無鄰菴などに携わった小川治兵衛が設計しています。

本館、茶室及び庭園が一体となり、鎌倉山の緑豊かな景観形成、風致の維持に寄与しており、都市景観上の重要性は高いものです。



- 沿革等：製薬会社で財を築いた長尾欽彌の別邸として築造
- 所在地：鎌倉市鎌倉山一丁目21番1号
- 規模：土地面積 23,408.41 m²(公簿面積) / 約 46,800 m²(実測面積)
建築面積 1,741.88 m²(公簿面積)